

第1回水稲病害虫防除対策全国協議会 議事概要

日 時：令和2年7月30日

場 所：農林水産省地方提案推進室、各地方農政局・県拠点 TV 会議室

参加者：都道府県、関係団体、試験研究機関、農林水産省関係各課

概 要：

1. スクミリングガイの防除対策について

事務局より、本年の発生状況と防除対策上の課題について説明を行うとともに、防除対策マニュアル（案）・チラシ（案）の提示を行った。主な発言は以下のとおり。

事務局：近年の暖冬等の影響で、これまで発生がなかった地域への発生の拡大がみられたことや、防除対策を行っていたのに被害が生じていることなどが報告されており、防除対策を再検討することが必要な地域が多くあると考えている。このため、今般、農水省でスクミリングガイの防除対策マニュアルを作成するので、地域の実情に応じた防除体系の検討に利用されたい。

都道府県：過去から発生している地域では、防除体系も定着し、スッポン、カメ、コイなど天敵の捕食もあり発生量は減少傾向。しかし、今年は、豪雨による冠水と暖冬の影響で被害が出ており、新たな技術開発等が必要。

都道府県：防除対策は様々な取組の報告があるが、より効果的な防除対策に絞ってマニュアルに記載した方がよい。

事務局：地域の実情により実施できる対策も変わるため、防除対策を限定することは適当ではない。いろいろな防除対策を組み合わせ、その効果を地域で実証し、地域の対策を確立することが必要。

なお、スクミリングガイの防除体系の実証にあつては、消費・安全対策交付金の病害虫の防除の推進が活用できるので、検討いただきたい。令和3年度予算要求において、引き続き事業メニューを継続することとしているので、予算が成立した際には、春先からの活用も検討いただきたい。マニュアルとチラシについては、別途、意見集約を行い、必要な修正を行った上で、公開する予定。

2. ウンカ類及び斑点米カメムシ類の防除対策について

事務局より、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ及び斑点米カメムシ類に関する近年の発生状況や被害状況等について説明を行った。主な発言は以下のとおり。

試験研究機関：トビイロウンカについては、早い時期から飛来があり、注意報も例年になく早い時期から出ている。例年、九州では発生が多いが、昨年は西日本のかなり広い範囲で発生した。現段階では、西日本での確認は多くないようだが、飛来が今もまだ続いている状況なので、かなり広域的に飛来しているものと想定した対応を講じられたい。

今後の対策として、特に基幹防除がお盆前までに行われる場合は、その効果を検証しつつ、お盆後の対応を見据えて、なるべく早い時期に防除対策を打つことが重要。坪枯れが起きた後では、対策を打つことがかなり難しいので、早い時期

から発生の推移を予測し、対応することが重要。

3. 温暖化の影響を踏まえた総合的な病害虫防除対策について

事務局より、今後の総合的な病害虫防除対策の推進に関して、生産現場における病害虫防除の課題や今後の IPM の推進方策の検討について説明を行うとともに、発生予察の高度化に向けた取組に関して、予察の迅速化・精緻化に向けた取組等を紹介した。主な発言は以下のとおり。

試験研究機関：IPM という野菜での天敵利用をイメージする方が多いが、スクミリンゴガイ、ウンカに対しても、難しいとは思いますが、移植時期をずらすなど耕種的防除ができれば有効な対策となる。対応可能な対策を様々組み合わせることが IPM を実践する上で重要。気候変動や異常気象が常態化している中であって、今後の発生予察においては、気象情報をさらに活用して的確に発生を予察していくことが、重要になってくる。精度の高い予察に対して的確な対策を着実に実施することが基本になるので、そういった観点で各種の取組を進めることが必要。

その他

都道府県：スクミリンゴガイの防除対策としてメタアルデヒド剤の散布のタイミングなどのコツを教えてください。

試験研究機関：食害が確認されてから撒いたのでは手遅れ。移植と同時に散布するのが基本。

農林水産省：スクミリンゴガイの対策は、耕種的対策が非常に重要であるため、各担当部局と連携して、取り組んでいただきたい。既に取り組まれている県は、引き続き頑張ってくださいことは当然だが、発生が広がりつつある県や、従来の対策がうまくいかなかった県において、新たな対策を検討してもらうことが重要。特に、これまで発生していなかった地域については、行政担当から熱心に働きかけていただき、定着する前に先行的な防除を徹底していただきたい。

都道府県：ウンカなどの海外飛来性害虫については、飛来源で既に抵抗性が付いている可能性があるが、そういった調査は国の方でお願いしたい。

試験研究機関：海外飛来性害虫の薬剤抵抗性については、これまで九州沖縄農研センターから情報を提供させていただいており、また、現在も、中国、ベトナムとの共同研究を通じて、情報をリアルタイムに入手できるよう取り組んでいるところ。情報提供は引き続き行っていきたい。

以上